



【表紙写真】

私たちの身近にある「小さな秋」。日常の中にある「小さな〇〇」に目を向けてみれば、新たな発見があるかも！ぜひ、皆さんも探してみてください。

表紙になるかも？

あなたの写真で全国に温もりを届けてみませんか

『小さな親切』誌では、下記のテーマの写真を募集。お写真は本誌やWebサイトに掲載するほか表紙に使用させていただく場合があります。採用された方には、粗品をプレゼントいたします！

- 親切な風景
- あなたの街の素敵な風景
- あなたのほっとする場所

〈申込方法〉

- お写真は紙焼きではなく、下記の方法でデータでお送りください。

【メール添付】 skm1963@kindness.jp

【DVDなどを郵送】

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
公益社団法人「小さな親切」運動本部 写真募集係

〈注意事項など〉

- 写真のサイズ：(スマホの場合) 800KB以上
(デジタルカメラの場合) 3,456 × 2,304ピクセル以上
- 人物がうつっている場合は、肖像権の侵害がないようご注意ください。
- 他のコンテストなどへの応募作品はご遠慮ください。

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2022年11月1日発行 通巻528号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社
©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



恒さんが行く!

私とし7月8日の朝、奈良市で起きた安倍晋三元首相に対する銃による狙撃事件。人の世には相変わらず悲惨な事件、事故等が頻発し、心の痛みが減ることがないが、かつて衆議院で自民党所属の議員として、安倍氏と共に働かせていただいた私にとって、この事件が私に与えた衝撃は、人一倍のものだった。公益社団法人の代表をつとめさせていただいている私は、不偏不党というより以上の思いから、政治に関することはこの欄でも、ごく限られた私的な事項に限らせていただいていたが、今回はなにとぞお許しを……とペンを取ることにした。

それは近代政治の根幹をなすものが議会制民主主義であり、その姿につながるものが公職選挙システムであるからだ。国・地方の議会や議員は選挙で当選してきたものによって運営されるのが基本であり、今回の事件が私たちに与えた教訓をかみしめたいと思う。

私は衆議院議員選挙に、横浜を選挙区として8回挑戦、結果は当選6回、落選2回だった。初挑戦はまだ中選挙区制下で、私は河野洋平さんたちが起こした新党「新自由クラブ」の立党(昭和51年)を、毎日新聞政治部の記者として先輩記者とともにスクープしたのが縁で、その後政界入り。その当時は金権政治腐敗が続き、私が初回の選挙で掲げたスローガンは「取り戻せ！恥を知る心を」。

地元の農家の三男坊として生まれた私は、いわゆる“三パン(地盤、看板、カバン=資金力)”はいわばゼロ。しかし、単純な性格から「有権者の10人に1人を納得させれば当選は可能」と自らに言い聞かせ、戦いに挑んだものだった。

新党ゆえに地盤はなく、一人で始めた選挙運動は、やがて若者や主婦の方々の応援を得られるようになり、それぞれ“ハッピー連”“つねちゃんズ”という名のもとに支援者が拡大。組織として応援、支援して下さるものはゼロからのスタートだった。横浜の北部からは衆議院議員が生まれたことはなく、“無冠の帝王”といわれていた新聞記者が政界に転身できたのは、生まれ故郷の人々の熱いお力添えのお陰だった。

私の度の事件で表面化したのは、選挙というものの怖さ。候補者はなにがなんでも一人でも多くの支持を得ようと思うし、そう行動する。言い方は悪いが、「勝つためにはなんでもする」。一方、組織の側には「自分たちのためになるなら、なんでもする」。こうした両方の思惑が結びつけば、“当選”が目に見えてくる。

今度の事件で表面化した宗教団体「旧統一教会」と、自民党や一部野党らとの関係は、いわば「自らのため」の秘策の露呈。「世のため、ひと(他人)のため」ともいべき宗教や政治の理想が、選挙という民主主義の原点であるべきものによって破壊されかねないことを、今回の事件は象徴しているように思えてならない。

とはいえ、未来のためにあきらめは禁物。「より良い社会」のためにご尽力いただいている皆さまを見習って、私ももうひとふんばりいたします。

このたびの銃撃事件に思う

代表 鈴木恒夫